

自分の個性

千代中学校 三年 和泉 咲依

「個性」

私には自分の悪いところから逃げるための言葉だと感じる。誰にでも気持ちがあり、人間の行動には意図がある。それらを人は「個性」という言葉で表す。良くも悪くも人から見えている自分と自分で考える自分、これが一致しているとは思わない。

私は勇気がなく、自分から行動を起こすことができない。日常化し、何をすれば良いのが決まっていたら気の持ちようが全然違う。やってみないとわからないし、失敗したって良いし、そんなに悩むことでもないというのは充分わかっている。ただ、行動しなきゃと思った瞬間「でもな・・・。」と言いつことを考えて逃げてしまう。決断力が足りない。私はそれを自分の個性として受け入れていない。

例えば一年生からやっていった部活動。先輩に気をつかい、代わりに何かをしたりすることはそれまでなかった。元々行動力がないのにできるわけがないと決めつけて逃げていた。実は、三年生に姉がいて、家での私を知られているから新しい自分を見せるのが恥ずかしくなかったのもある。片付けをするときも、荷物を運ぶときもやっているとわかってからでないと体が動かない。ただ、毎日やっていくうちにやる事が明らかになっていて、二年生になると後輩へ教える立場にまでなっていた。後輩には私みたいな子は一人もいなくて、みんな積極的に動いていた。

私の周りには行動できる人の方がたくさんいる。人と比べる必要はないと思うけれど、周りの人が行動できる人だと私は行動せずに怠けているように見える。実際に行動していない人は偉そうな人、何もしていないはずの人という印象がある。私自身そうなのに、行動していかない人に対してはそう思ってしまう。

例えば誰かの家でご飯をごちそうになった後の片付け。自分の家ではないから、どこに何を片付けたら良いのか、自分の家と片付けの仕方が違うかもしれないと色々考えてしまつて体が動かない。たくさん考えて迷っているうちに、母や家主の人が声をかけてくれて指示してくれる。そこからやつと行動ができる。そういうとき、私が求めてしまうのは、「やること」が具体的にわかるといいな、ということだ。リスト化したり、流れを説明したりしてくれたら、迷うことなくスムーズに作業できるのにな、と思ってしまう。もちろん自分で考えてどんどん行動できる人の方が世間的には良いのだろう。それは理解している。私の周りにそういうことを言ってくる人もいる。だから、自分から考えて行動できる人を羨ましく思うし、尊敬する。私もそうなりたくて頑張つてはみたものの勇気は頑張つて出るものではなかった。一瞬だけ我慢すれば、結果がついてくるかもしれない。そう思つて頑張つたけれど変わったことはなかった。どうしてだろう。

自分から考えて行動できる人、それは母だ。親戚の家で、後片付けを初めに手伝う。そういうときの母から、勇気を出している様子は見えない。何の迷いもなく、自然な行動のようだ。それに比べて私は・・・、と落ち込む。

「個性だ」と言われれば間違っではないのだろう。でも私は「個性だよね」と言われても、納得しないし、直したいと思う。

まず、言われたことを着実にこなし、それに加えて自分から行動できるようになりたい。

中学生になって、変わったことやできるようになったことがある。少しは成長している。だから、これから大人になるまでの時間を、修正できる場面として活用したいと思う。

いつか母のように、やった方が良く自然体で行動できる大人になるために。